



おかげさまで今年も実施

第37回主任手当拠出公演



開場と同時に次々に座席が埋まっていきます。先着順ということ、せっかく来ていただいた方も入場できないのは申し訳ないと思いつつ、結果は超満員の三百余名。残念ながら四家族の入場を断る結果になってしまいました。今年で三七回を迎えた

文化公演。「一部の主任にだけ手当を支給するのは、教職員の中に差別を持ち込む」として、拠出には組合員だけでなく、多くの教職員が協力してしてくれています。「差別をうむためのお金ではなく、子どもたちのためにお金を」とこの思いはこれからも守り続けたいものです。

名作「子どもたちの歓声響く」

二月十一日(木)、中央市民会館劇場で主任手当拠出金による文化公演が行われました。今年の劇団は「影法師」で、影絵「スイミー」「モチモチの木」が演目でした。今年も大勢の子どもに喜ばれました。

越教組ニュース

越谷市教職員組合
情宣部
16.02.23(火)
Tel 988-3281
Fax 988-3283

参観者感想

いろいろなかけえがみられて、とてもうれしいです。ありがとうございました。どれもたのしかったです。(小一年生)

こわいところもあつたけど、おもしろかったです。(小二年生)

スイミーで、はくりよくかんがあつて、おもしろかった。このゆびとまれでは、人がたこやいかなどをいろいろなものをつくっていておもしろかったです。(小三年生)

どうぶつの動きがすごかったです。はく鳥みたいの鳥を自分でまねしてみました。むずかしかったです。(小三年生)

きつねがうたつてすごかったです。まめたがきゅうにゆうきもつていしゃさまよんですごかったです。(小一年生)

秋田県が小・中学校で二十人程度学級実現へ

秋田県は八日、県議への二〇一六年度予算説明会で、少人数学級推進事業として、現在小学校六年生を除いて実施している県独自の三十人程度学級を、小学校六年生まで拡充することを明らかにしました。これで秋田県は義務教育全ての学年において三十人程度学級が実現することになります。

文科省は一学級の人数を小学一、二年は三五人、小学三年〜中学三年は四〇人以下としています。それ以上の実施については、県や市など地方に委ねられています。そのため独自に少人数学級を実施するには、費用全てを地方で賄うしかありません。

秋田県は、きめ細やかな教育で学力向上と不登校児童生徒の減少が期待できるとして少人数学級を推進してきました。

〇一年度から小学一、二年に導入、〇二年度に中学一年を加えるなど対象を順次拡大し、十五年度には小学五年を加え、未実施は小学六年だけとなっていました。なお、十五年度には少人数学級に

対応するため、常勤、非常勤合わせて講師二十五人を小中学校に追加していました。

今回の秋田県の英断は、きめ細やかな教育のため少人数学級を願う人々に希望の光を灯すことになりました。

ちなみに埼玉県では財政難を理由に、少人数学級拡充を拒否し続けています。越谷では少人数学級拡充のための署名を本日(二三日)に提出しました。：詳細は越教組ニュース次号で報告します。

部活顧問改善の新聞記事

13日(土)の朝日新聞社会面に『部活顧問「改善を」』という見出しとともに、部活動の実態と改善を求める動きを伝える記事が掲載されました。

記事には「中学、高校の部活動を巡り、顧問を務める教員の多忙さ、休日返上の練習などの問題を改善しようと、若手教員らがネットで署名を集める活動を始めた。…」との前文に続き、部活動の実態、文科省の動き、教科外教育専門の大学教授の談話、ネット署名に賛同した教員らのコメント例、漫画等が紹介されています。

日本の労働時間については、経済協力開発機構(OECD)が2013年に34カ国・地域を対象に中学校レベルの教員の勤務環境を調査。日本は参加国・地域中最も労働時間が長いことが発表されました。その主な原因として「課外活動の指導⇨部活動」が挙げられ、文科省も中教審で取り上げざるを得ない状況にあります。速やかな解決策の答申を出してもらいたいです。

